

2019年度 支援者を伸ばす実践セミナー

「子どもの発達支援と家族支援の重要性」
～子どもと家族を取り巻く背景を理解しながら～



日時：2019年8月10日（土）～8月11日（日）

場所：北とぴあ

参加者：82名

コーディネーター：玉井 邦夫（大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授
公益財団法人 日本ダウン症協会 代表理事）

【プログラム】

(敬称略)

1日目:8月10日(土)

「家族支援と発達支援」、「家族支援のコミュニケーション」

玉井 邦夫(大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授
公益財団法人 日本ダウン症協会 代表理事)

「子どもの理解と実演」

酒井 康年(うめだあけぼの学園 副園長)

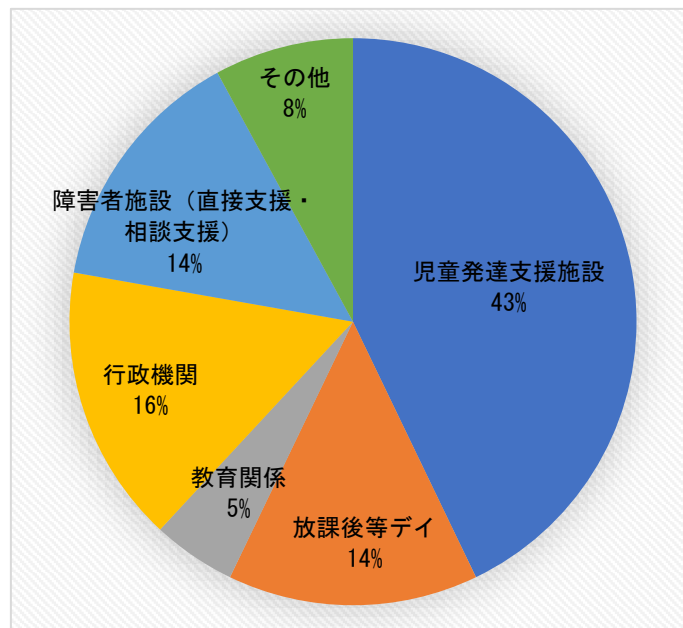
2日目:10月6日(日)【アドバンスコース】

「デモンストレーションと演習」

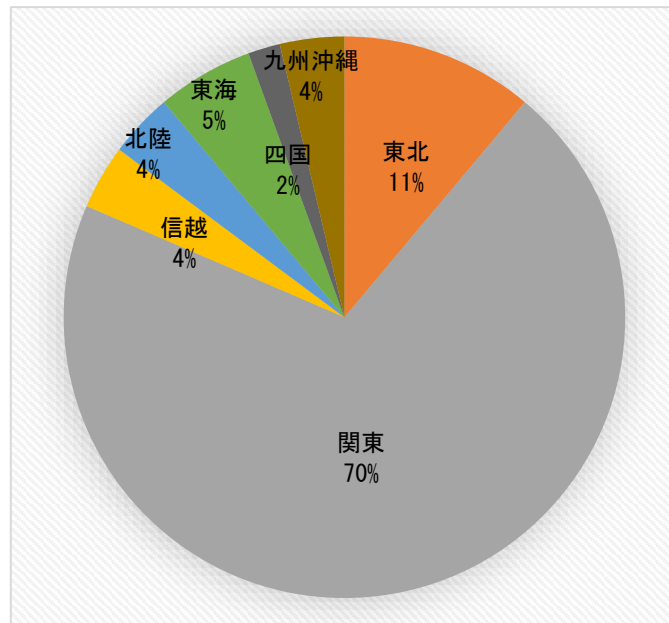
玉井 邦夫(大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授
公益財団法人 日本ダウン症協会 代表理事)

参加状況

現在従事されているご職業

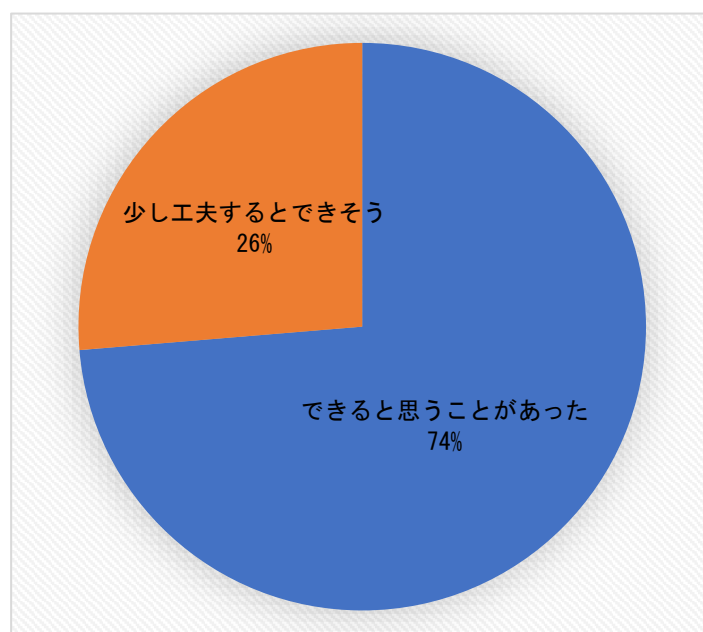


お住まいの地域



参加者アンケート

実践セミナーで受講した内容は事業所等に戻り実践できる内容でしたか？



参加者の皆様からの声

- ・子ども一人一人の感覚(どう感じているのか、どう見えているのか)をしっかりと見立てて、個に合わせた関わりを考えていきたいと思いました。
- ・お子さんだけ、お子さんの為の支援ではなく(保護者さん)家族支援もつながっているということを改めて意識するようになった。
- ・早く子どもに会いたくなりました。学んだことを現場のメンバーに伝えたい。
- ・感覚過敏の子どもたち、鈍感な子どもたちの感じ方への理解をさらに深めることができました。お盆明けに現場でまた子どもたちに会うのが楽しみです。
- ・子供を支援することは保護者を支援する事、イコールだと思っている自分でしたが、玉井先生の話聞き、イコールと疑っていなかった自分が恐ろしいなと感じました。そこを理解できていなければ皆が切ない気持ちを抱え苦しむことになることも事例をあげ説明していただき、わかりやすかったです。感覚は人によって違いまだそれが生活の中でどのように反応しているのか、考えるよい機会になりました。
- ・まだ保護者さんと同じ方向を向いて支援をしていくことが出来ていないことを感じました。日々の中で職員と情報を共有しながら作戦を練り直したいと思います！
- ・苦手な感触を好きにさせるのではなく、1%でも大丈夫と思える・応じられる力につなげる工夫をしたいと思いました。姿勢保持が難しい児＝体幹を鍛えるという考えしかなかったが、社会性を大きく関わっていると学びました。